



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

紅葉の季節になりました

地域連携歯科 科長 丸岡 靖史

地球温暖化の影響でしょうか、秋に咲く花々も若干開花が遅れました。曼珠沙華はお彼岸の後に満開になり、金木犀が香り始めたのは10月中旬でした。災害も多く、台風15・19号などの影響で各地に甚大な被害が発生しております。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

日本中を元気にさせた話題としては、9月から11月に行われたラグビーのワールドカップ(W杯)日本大会です。日本がアイルランド、スコットランドなどの強豪国を破って、予選リーグ全勝で決勝トーナメントに進出したことは快挙です。国際統括団体ワールドラグビー大会を総括する記者会見で、ビル・ボームント会長は「最も偉大なW杯として記憶に残る、日本は開催国として最高だった」と高く評価しました。ワンチームのオールジャパンで成し遂げた成果だと思います。ラグビー観戦していると気づくと思いますが、選手はカラフルなマウスピースを装着しています。試合中、コンタクト時の衝撃から歯及びその周囲組織を守り外傷を防ぐためです。歯科病院にもスポーツ歯科外来がありますので、コンタクトスポーツをされる方はご相談ください。

さて、口腔には噛む・食べる・飲み込む・味覚・唾液による消化・免疫物質の分泌・呼吸・話す・異物の認識・平衡感覚の維持・感情表現などのさまざまな機能があります。そのために、口腔の機能が低下すると、生活の質が低下します。特に全身麻酔での手術・抗がん剤治療前後(周術期)・緩和医療期に口腔機能が低下すると術後肺炎など合併症の誘因にもなります。

周術期等の口腔機能管理では、手術や抗がん

剤治療の前後に患者さんの口腔内に虫歯や歯周炎、虫歯から生じた歯根尖の病巣や、歯周炎からの歯周病巣などの感染源がないかどうか、義歯の具合、動揺歯や口腔粘膜の異常などを、X線写真検査を含めて総合評価します。評価後、必要に応じて、専門的な口腔清掃や指導、動揺歯の固定、義歯修理・調整、抜歯などで感染源の除去を行います。専門的な口腔機能管理を行うことで、術後感染・肺炎予防、口腔のトラブル(気管内挿管時の歯や粘膜損傷・口内炎)予防となり、入院期間・抗がん剤投与期間の短縮に役立っています。さらに、術後に早く食事ができるための支援で、生活の質の向上が期待できます。

最近、がんの骨転移などの患者さんに、骨吸収抑制作用を持つデノスマブや、血管新生抑制作用を持つ抗がん剤などが投与されています。その使用中・後に、数%の患者さんに顎骨壊死が生じることがあります。歯性感染病巣(虫歯から生じた歯根尖の病巣や、歯周炎からの歯周病巣)の放置や、義歯不適による粘膜潰瘍から生じることがあります。上記薬剤使用前から、積極的に口腔機能管理を行って薬剤を開始する方が得策です。

昭和大学歯科病院では、昭和大学各附属病院と連携して、全身麻酔手術前・がん放射線治療・抗がん剤治療・緩和医療期・骨吸収抑制薬投与期などの口腔機能管理も積極的に行っております。



当科は昭和大学歯科病院宛の紹介状(特定の診療科宛ての紹介状を除く)をお持ちのすべての患者さんに対応する診療科です。院内の各専門科、昭和大学附属病院の各専門科と協力し、患者さんに最良な歯科治療を提供するべく日々診療しています。そのため、初診時には医療面接が長時間になる場合や、直ぐに歯科治療を行えない場合もありますので、ご了承下さい。

診療内容

1)有病者:

心臓・脳血管疾患、糖尿病、血液疾患、腎疾患、呼吸器疾患など重篤な全身疾患を持っている患者さんの場合、医療面接に十分に時間をかけ、治療前に全身的なリスク評価し、かかりつけ医に対診を行います。治療時には必要に応じて脈拍、血圧、心電図のモニターを装着し、安全且つ苦痛を最小限にした治療を行っています。必要に応じて歯科麻酔科医と協力して診療を行い、治療中や治療後の急変にも対応できる体制で行っています。

2)歯科恐怖症・異常絞扼反射(嘔吐反射):

歯科治療に強い恐怖心を持っている方や口腔内を触るだけで嘔吐反射をおこす方の歯科治療も行っています。治療前に歯科治療に対する詳細な問診を元に、それぞれに適した治療法を提案しています。静脈内鎮静法や静脈麻酔を併用して治療を行い、徐々に歯科治療に慣れていくような、段階的な治療を行っています。静脈内鎮静法や静脈麻酔を併用しても治療が困難な症例や、長期間の治療が予想される症例は、患者さん、歯科麻酔科医と相談の上、全身麻酔管理下で集中的に治療を行う場合もあります。

3)薬物アレルギー:

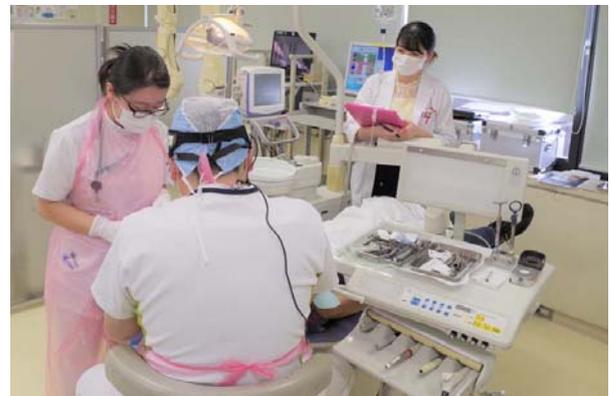
各種薬剤、歯科麻酔薬などにアレルギーがある患者さんは、昭和大学病院などの医療機関と連

携して治療を行っています。歯科麻酔薬などに重篤なアレルギーがある場合には、歯科麻酔科医と協力し、モニター管理下や全身麻酔管理下での治療も行っています。

4)抗がん剤・骨吸収抑制薬使用中の方:

抗がん剤や骨吸収抑制薬(ビスフォスフォネート製剤・抗RANKL抗体:デノスマブなど)を使用中の患者さんでは、口腔粘膜炎や薬剤関連顎骨壊死などの有害事象が生じることがあります。かかりつけ医療機関と連携して、薬剤使用前からの口腔機能管理を行って有害事象の軽減を図っています。口腔粘膜炎や薬剤関連顎骨壊死が生じた患者さんにも、積極的な治療や投薬など、各々の患者さん合った治療を行っています。

このように地域での歯科治療が困難な患者さん一人一人に対し安心・安全な医療を提供できるよう、医局員一同、力を尽くしていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。



静脈内鎮静法による治療の様子



地域連携歯科スタッフ

昭和大学では、平成23年9月に歯科病院のスポーツ歯科外来が開設されました。その後、平成27年4月にスポーツ運動科学研究所が開設され、平成28年1月に藤が丘リハビリテーション病院に2カ所目となるスポーツ歯科外来が開設されました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、国民のスポーツに対する関心は一層高まりつつあります。オリンピックをはじめとする主要国際大会に日本代表選手が参加する場合、内科、整形外科および歯科のメディカルチェックを受けることが義務付けられています。つまり、良好な口腔内環境が重要であるのです。また、スポーツ競技中に口腔内に装着する装置はスポーツマウスガードと呼ばれ、以前よりアメリカンフットボールなどのコンタクトスポーツを中心に使用されてきました。最近ではさまざまなスポーツにおいて、マウスガード装着が義務化や推奨化されています。当院にはアスリートだけでなく、成人のスポーツ愛好家から部活動や習い事でスポーツを楽しむお子様まで、多くの方が受診されています。乳歯と永久歯の生え変わり中のお子様や矯正治療中のマウスガード製作も可能ですので、どうぞお気軽にご相談下さい。

—スポーツマウスガードの特徴—

歯・歯周組織の保護、口唇・舌・頬の損傷防止、顎関節の保護、顎骨骨折の予防、食いしばり時の

力の発揮、全身のバランスの調整および脳震盪の軽減などの効果が期待されています。スポーツ用品店などで販売されている既製品(図1)もありますが、これらは歯列への適合性が悪いため違和感が強く、外傷予防効果も低くなるため、当院では上下歯列の型取りをして作製するカスタムメイドタイプマウスガード(図2)を作製しています。

1. 医療面接

競技種目やポジション、現在のスポーツ環境、マウスガードの使用経験等を伺います。マウスガードの外形や厚みの参考にします。

2. デンタルチェック

虫歯や歯周病がないか、歯並びや噛み合わせに問題がないかを検査します。レントゲン撮影などの精密検査を行うこともあります。もし治療が必要な状態であれば、マウスガード作製前に行わなければなりません。

3. 上下歯列の型取りと噛み合わせの記録

治療が終了したら、上下歯列を型取りし、噛み合わせを記録します。マウスガードは主に上顎に装着しますが、下顎に装着するケースもあります。模型上で上顎のマウスガードを作製し、ある程度下顎との噛み合わせを調整します。

4. マウスガード装着

マウスガードは型取りを行ってから約1週間で完成します。口腔内に装着して適合を確認し、噛み合わせの微調整を行います。



図1. 既製品



図2. カスタムメイドタイプ

第15回 昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が開催されました

第15回になります昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が、令和元年10月16日(水)午後8～9時に昭和大学旗の台キャンパス1号館7階講堂で行われました。

今回は、参加者より要望が多かった食道癌手術と歯科に関するお話を昭和大学医学部外科学講座消化器・一般外科部門助教(昭和大学病院消化器・一般外科)山下剛史先生に行っていただきました。演題は「食道癌手術における周術期管理」という日常遭遇する食道癌のトレンドから、食道癌の最新治療まで短時間の中で、分かりやすく紹介していただきました。

食道癌は口腔の清掃状況が、手術後の予後にも影響するため大変重要な診療科です。講演後には、周術期管理と口腔ケアの重要性という質疑も会場から出て、参加者の関心の高さが垣間見られました。近隣の歯科医師会の先生がたも25名程度参加し、また学内関係者も60～70名程度

集まり、大盛況の会となりました。

日頃、疑問に思っている点を終了後も熱心に質問されていました。最近の傾向として、昭和大学の医師や看護師等をはじめ、歯科衛生士の参加も増えてくるようになりました。チーム医療の昭和大学としては、嬉しいかぎりです。今後も継続したいと思います。

この昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会は昭和大学口腔ケアセンター城南地域連携協議会を中核とした医科歯科連携のチーム医療の促進を目指し、周術期口腔機能管理に係る地域連携に必要な知識の習得を目的として行っております。次回講演会は令和2年2月5日(水)午後6時より、昭和大学旗の台キャンパス1号館7階講堂にて行われます。ぜひ皆様多数の参加をお持ちしております。

昭和大学口腔ケアセンター長 弘中 祥司



講演する山下先生



活発な質疑応答

編集後記

スポーツの秋といいますが、個人的に今年は盛り上がりました。自国開催のラグビーワールドカップで桜のジャージが快進撃。「にわか」の私は大興奮でした。そんな日本チームが掲げた言葉が「One Team」。勝利に向かってさまざまな人間が1つになる、どの組織にも当てはまる胸に響く言葉です。

さて来年は日本でオリンピックが開催されます。どんなドラマ、感動が生まれるか。今から楽しみです。

(Y.O)